

AI/DX人材育成 e-learning Aidemy Businessのご紹介



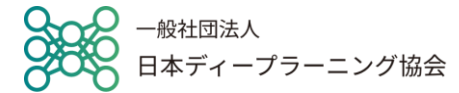
株式会社アイデミー

会社概要

会社名	株式会社アイデミー（証券コード 5577）
代表者	代表取締役 執行役員 社長 石川 聡彦（Akihiko Ishikawa）
会社理念	先端技術を、経済実装する。
所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー 6F
ワークショップ アドバイザー	川越 至桜（東京大学生産技術研究所 准教授）
資本金	5,400万円（2025/5/31時点）
連結従業員数	130名（2025/5/31時点、正社員のみ）
単体従業員数	81名（2025/5/31時点、正社員のみ）

加盟団体

Keidanren
Policy & Action



導入企業（一例）



提供サービス

全社まるごとAI/DX推進パートナーとして、**貴社のデジタル変革を加速し、一気通貫で実現します**

リテラシーの底上げ

危機感醸成セミナー

Aidemy BUSINESS

AI/DX人材育成e-learning

「わかる」から「使える」へ

Aidemy PRACTICE

AI/DX実践型研修

手を動かすアウトプット実施や、
講師からフィードバックを得ることで
座学で学んだ“知識”を
実務で使える“知恵”へと昇華

開発・運用支援

Aidemy SOLUTIONS

AIシステム開発

アイデミーのAI専門チームが
現場で活用されるAIを共に開発し、
お客様がAIを活用して
持続的に利益を生み出せる環境を構築

DPAS

DX推進力の可視化アセスメント

Aidemy Business(AI/DX人材育成 e-learning)

- イン트로ダクション
- サービス
- 導入事例紹介
- Appdendix

DX化されている状態

DX化されている状態

組織の
遂行能力が高い

デジタルを強みとして
活用している

結果として

他社が模倣できない
自社独自の強みを持つ

変わりゆくビジネスの
競争環境に適応できる

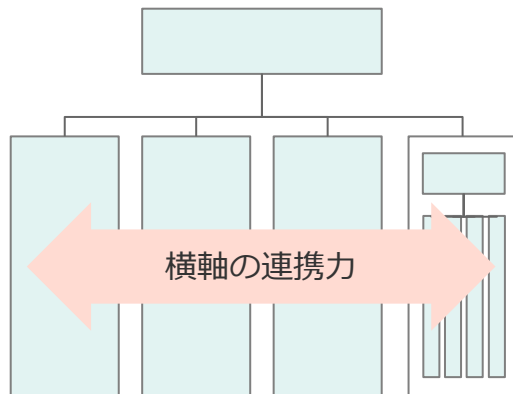
DX化されていないと

市場の変化に適応できず
競合企業に遅れを取る

ノーマークだった
デジタル力のある企業に
市場シェアを取られる

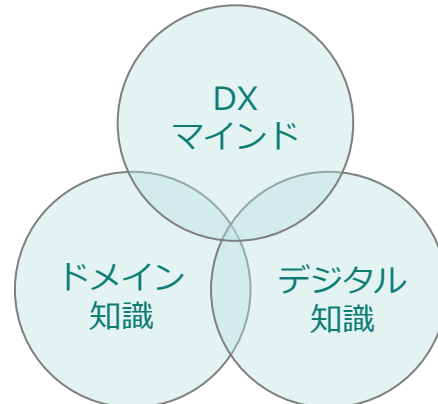
組織体制

縦割りの中にも
横連携があり
全体最適で動ける体制がある



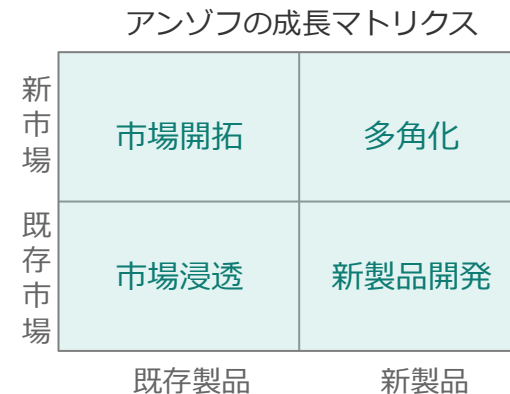
全社員のリテラシー

変化スピードを理解し
業務で「ドメイン×デジタル」を
活用できる力がある



事業戦略

自社の競争力の源泉を軸に、
環境変化に応じた
事業戦略を持つ



デジタル力

競争力の源泉となる領域を
内製できる
人材とノウハウがある



全社的なDX推進における障壁

DX人材の割合が少ないため、DX推進が難航

社内の
人材割合

【参考レベル】

DX推進スキル標準
- 5人材像

DXリテラシー
標準



DXリテラシーのない
Not-DX人材

エキスパート人材の採用/育成
だけではDX化が進まない



業務改革

事業変革



Not-DX人材は、指揮を受けても動けない

Aidemy Business導入後のイメージ

「高いDX推進力を持つ組織」へと変化

社内の
人材割合

エキスパート

アドバンス

エントリー

Not-DX人材

各人材のレベル定義

【DXを牽引する中核人材】

- ・経営/事業に沿うデジタル戦略を立案・実行できる
- ・新サービスや業務を構想し、実装まで導ける
- ・組織横断のDX施策を主導し、変革を波及できる

【エキスパートの協力を得て動ける推進人材】

- ・データで業務課題を整理し、改善の方向を描ける
- ・関係者と協働し、デジタル施策を企画・提案できる
- ・技術を組み合わせ、PoCや業務変革に貢献できる

【基礎的なDXリテラシーを持つ】

- ・DXの目的・必要性・社会背景を理解している
- ・データ・デジタル技術の基本・事例を理解している
- ・自業務におけるデジタル活用の可能性に気づける

ビジネス現場で働く人材

自社業務の専門知識

x

デジタル素養・知識

指揮の下、動ける人材が増えて
DX推進が加速する



DX人材



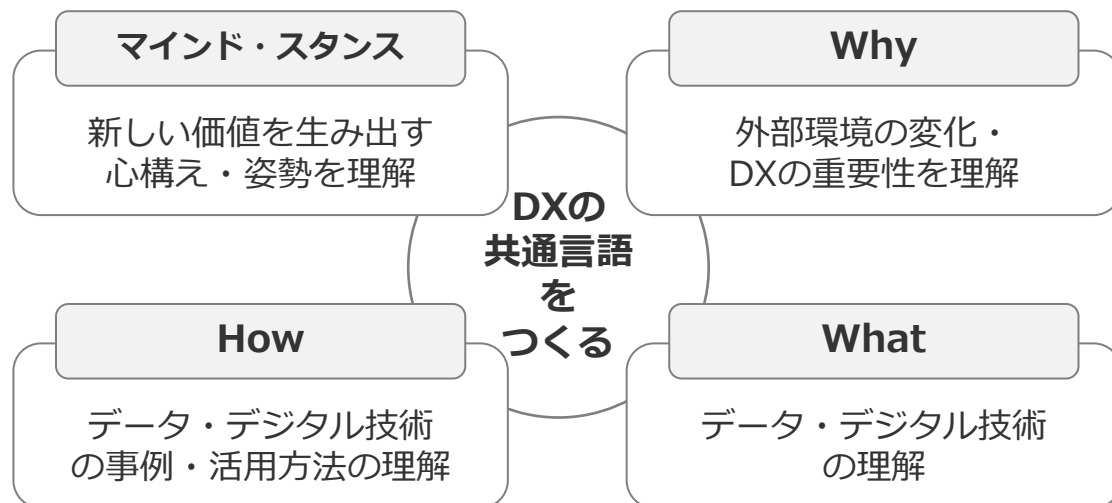
エキスパート

エキスパート人材と共に協働できる
エントリーレベル以上のDX人材を増やす

経産省が提唱するDX推進に必要な人材像

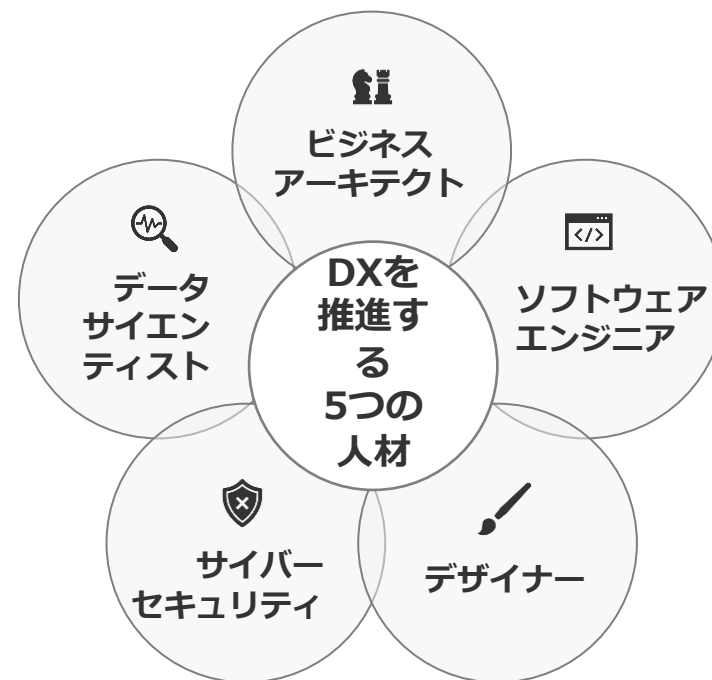
DXリテラシー標準

一人ひとりがDXに参画して、
成果を発揮するために必要なリテラシー



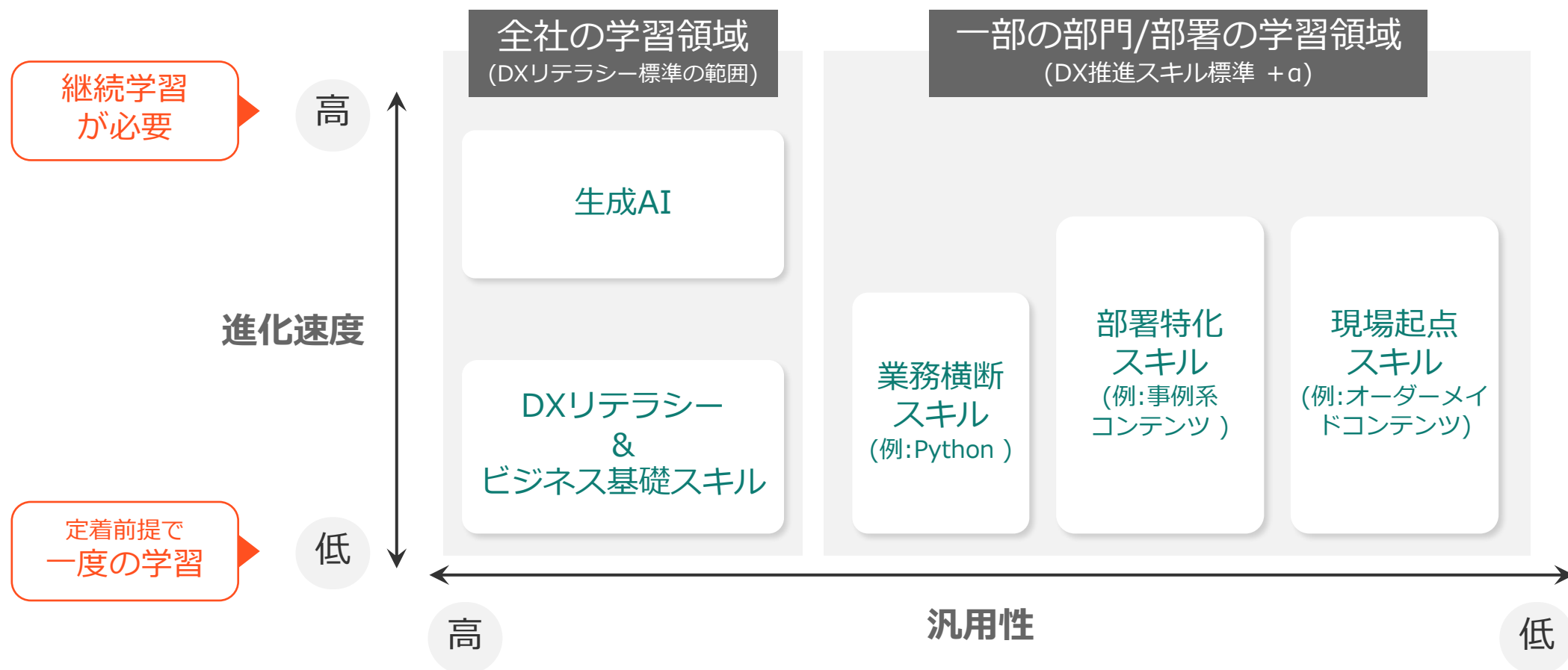
DX推進スキル標準

DXを推進する5つの人材像が担う役割・スキル



“進化速度 × 汎用性”で考える、スキル別育成の考え方

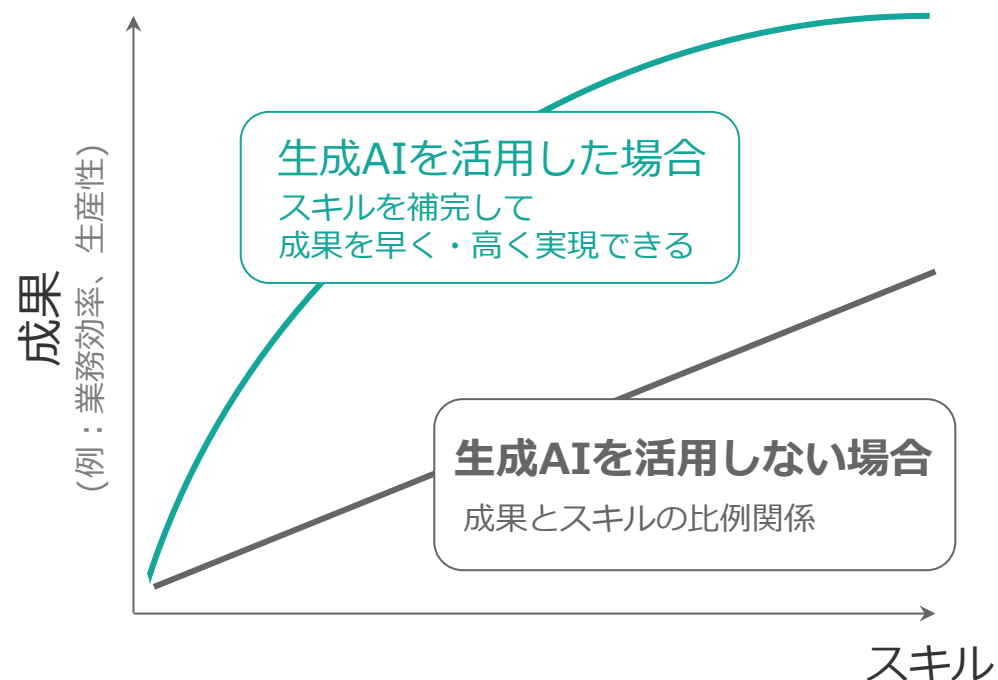
スキルの性質に応じて、“学び続けられる仕組み”が必要



全社員で“学び続ける”生成AIが、組織の競争力を決める

生成AIは、全社員のスキルを底上げする“てこ”になる

生成AIを学ぶことで
「スキルのレバレッジ」を最大化できる



生成AIに限らず、知識の陳腐化が早まり、
“学び続けないと価値が維持できない”時代に

以前の考え方

4 to 40

4年間学んだ知識で
40年間働く

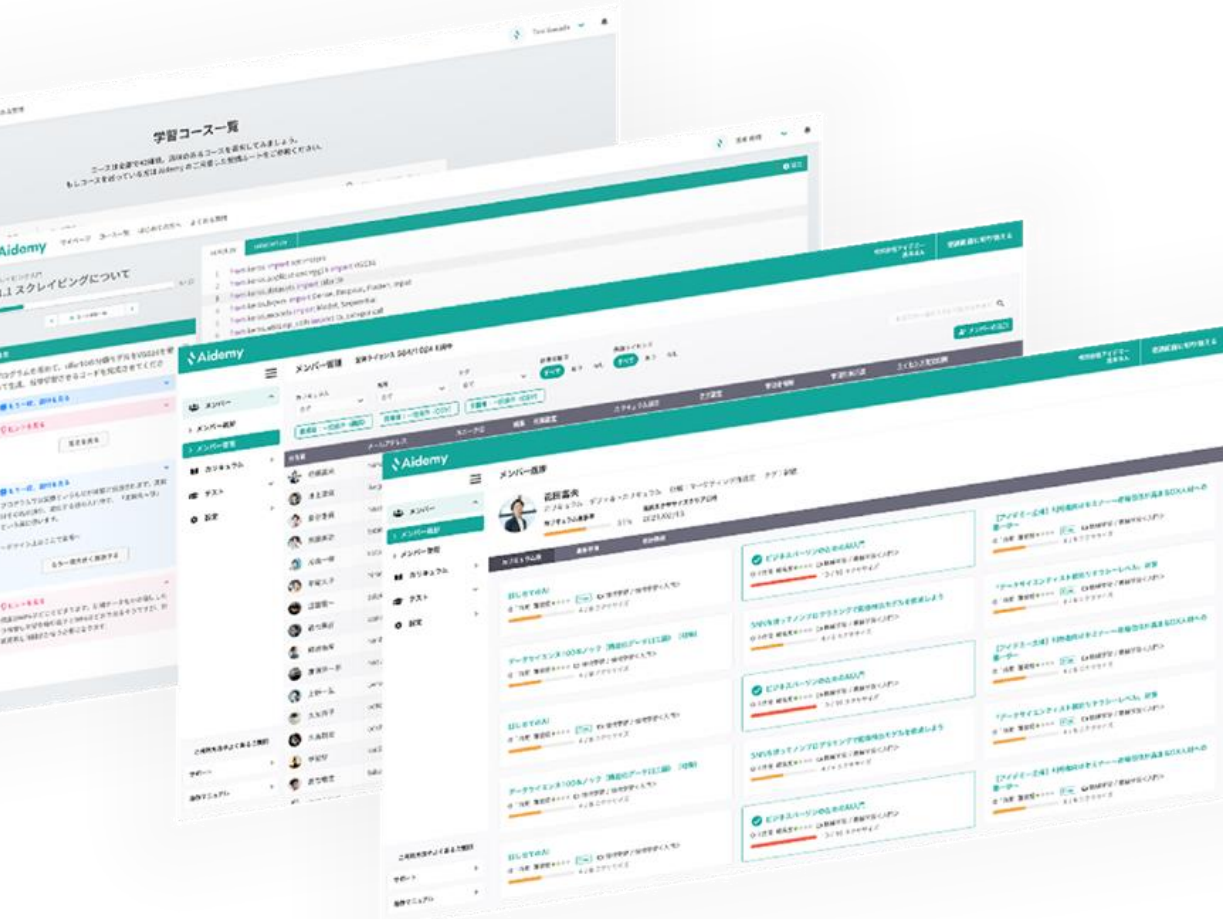
現在の考え方

4 to 4

4年間学んだ知識で
4年間働く

出典: 『リデザイン・ワーク新しい働き方』 リンダ・グラットン, 2022年, 東洋経済新報社

AI/DX人材育成 e-learning「Aidemy Business」



ユーザー数35万人超※

変化に強い組織をつくる“学びのインフラ”

 **Aidemy BUSINESS**

学びの広さ・深さ・新しさを全社で継続できる学習基盤

※「Aidemy」サービスの累計ユーザー数です。

AI/DX人材育成e-learning「Aidemy Business」 学習を深める関連サービス

AI/DX人材育成 e-learning



AI実務直結型ワークショップ

<https://practice.aidemy.net/>



GX人材育成サービス

<https://gx.aidemy.net/>



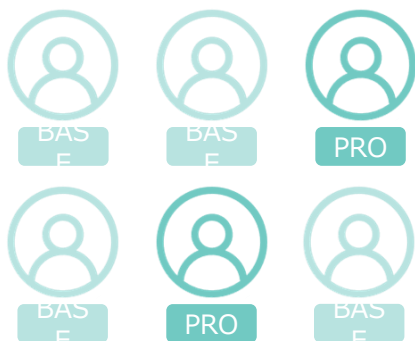
DX推進力の可視化アセスメント

(Digital Professional Assessment Service)

<https://dpas.org/>

Aidemy Businessの特徴 3 つ

学びの広さ・深さ・続けやすさを備えた“学びのインフラ”



1. ライセンス

必要な人に
必要なだけ使える仕組み



2. コンテンツ

DX/AIに特化した
コンテンツが豊富

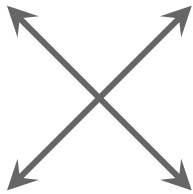


3. システム

継続学習・知識定着を
支援するシステム

必要な人に必要なだけ使える仕組み

必要な人が、必要なだけ学べる「柔軟な仕組み」



広く届ける

全社必須スキルを
効率的に浸透

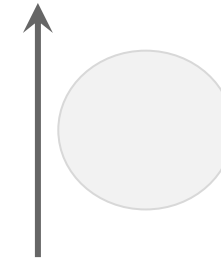
ベースライセンス



深く届ける

専門スキルを
必要な人に集中提供

プロフェッショナルライセンス

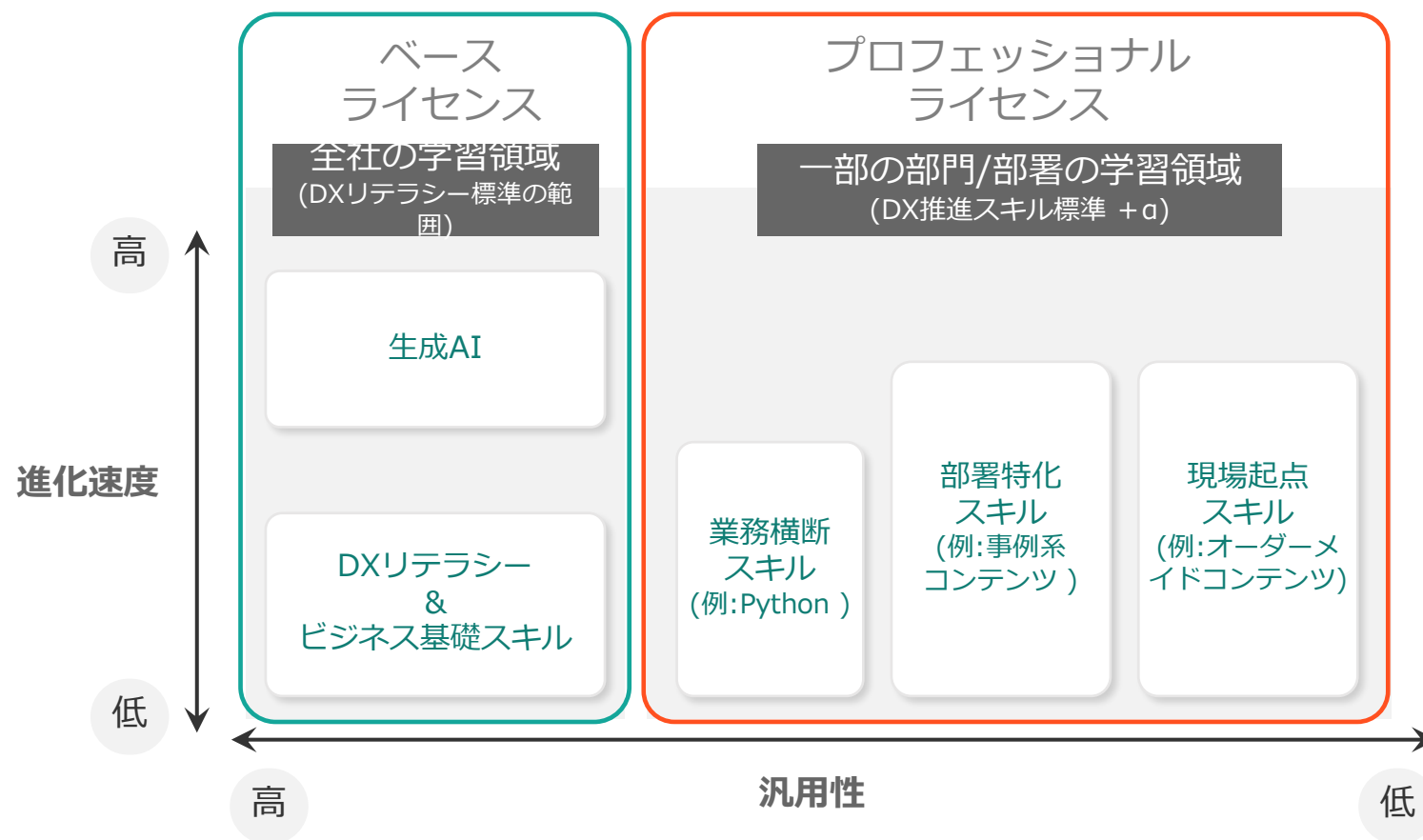


ムダなく届ける

役割・チームに応じた
学習内容の最適化

必要な人に必要なだけ使える仕組み

学びの最適解を実現する、2つのライセンス



■ ベースライセンス

- 全社員配布可能 - 発行数は無制限
- 約70コース見放題 - 基礎・生成AI含む
- 確認テスト(コース/カリキュラム単位)
- カリキュラムテンプレートの提供
- イベント招待

■ プロフェッショナルライセンス

- 任意のユーザーに配布 (1人単位)
- 全250コース見放題 - 専門スキル含む

DX/AIに特化したコンテンツが豊富

DX推進に必要な「共通言語・知識・スキル」の習得

コンテンツの数

※
250
コース以上

+

毎月新しいコースが追加

※プロフェッショナル
ライセンスを利用した場合

コンテンツの網羅性

対象	ビジネス職		ITエンジニア職
レベル	入門	基礎	実践
カテゴリ	DX リテラシー	生成AI AIビジネス、 事業企画 データ活用	機械学習、 深層学習
	10分 キャッチアップ		MLOps、 開発手法
	ビジネス 基礎		プログラミング (Python)
	ビジネス 変革		その他
	ベース ライセンス	プロフェッショナル ライセンス	

コンテンツの質

アイデミーのコンテンツ部が
一貫した制作・品質管理を実施

講師

講師の85%以上が実務経験者
社内社外から、選抜された講師

テーマ

様々なニーズや社会的課題に
沿って、自社で企画

制作
担当

教科書・学習参考書などの
編集経験を持つメンバーが在籍

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

人気シリーズ | 10分キャッチアップシリーズ

本格的に学習をはじめる前の入門編や
キーワードを学習したい方に最適なコース

▼ DXに必要なマインド・スタンスとは



※すべてのコース名の前に「10分でキャッチアップ」が付く

No	コース名※	対応 ライセンス	No	コース名※	対応 ライセンス
1	SX・GX・DXの関係性	ベース	12	ネットワークとは	ベース
2	AIにできること	ベース	13	コンピュータとは	ベース
3	DXとは	ベース	14	ソフトウェアとは	ベース
4	GXとは	ベース	15	クラウドとは	ベース
5	DXが求められる背景	ベース	16	Pythonとは	ベース
6	DXに必要なマインド・スタンスとは	ベース	17	Jetsonとは	ベース
7	機械学習とは	ベース	18	生成AIとは	ベース
8	DX推進に必要なスキルとは	ベース	19	AIガバナンスとは	ベース
9	データ・デジタル技術の活用方法・事例	ベース	20	AI拡張型開発とは	ベース
10	DXで活用されるデータとは	ベース	21	ITパスポート試験とは	ベース
11	サイバーセキュリティとは	ベース	22	データサイエンスとは	ベース

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

人気コースの一例

★付きのコースは、半年後にプロフェッショナルライセンスへ変更予定

#	コース名	時間	難易度	対応 ライセンス
1	10分でキャッチアップ_DXとは	0.2	1	ベース
2	10分でキャッチアップ_AIにできること	0.2	1	ベース
3	【新】 ChatGPT入門	0.5	1	ベース
4	導入で学ぶ！生成AI組み込みで社内業務効率化	1	1	ベース
5	定型業務を自動化しよう！概論編 RPA入門	1	1	ベース
6	DX実践のためのローコード開発 Claris FileMaker 基礎編	2	1	プロ
7	Power BI基礎編 データ可視化と活用概論	1	1	プロ
8	これだけはおさえたいExcel基礎	1	1	ベース
9	事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論	1.5	1	ベース
10	事例で学ぶ！DX事業立案	3.5	1	ベース
11	ビジネスパーソンのためのDX入門（サマリー版）	3.5	1	プロ
12	DXリテラシー：マインド・スタンス ～ケーススタディで学ぶ、DXマインドとは？～	1	1	ベース
13	DXリテラシー：Why ～DXの求められる背景～	1	1	ベース
14	DXリテラシー：What （DXで活用されるデータ・技術）データ	1	1	ベース
15	DXリテラシー：How（データ・技術の活用）留意点	1	1	ベース

#	コース名	時間	難易度	対応 ライセンス
16	Linux入門	2	1	プロ
17	投資対効果を最大化するAI導入	3	1	プロ
18	UXデザイン概論 ～ユーザー中心設計を理解する～	1	1	ベース
19	機械学習につながるビジネス数学	0.5	1	プロ
20	はじめてのPython★	4	1	ベース
21	SQL基礎	1.5	1	プロ
22	ITパスポート試験対策 1・2・3	16	2	プロ
23	「データサイエンティスト検定リテラシーレベル」対策	7.5	2	プロ
24	Python3エンジニア認定データ分析試験対策①	6.5	2	プロ
25	統計検定3・4級対策	20	2	プロ
26	マテリアルズインフォマティクス概論	3	3	プロ
27	画像データによる異常検知：入門編	3	3	プロ
28	自然言語処理基礎	3.5	3	プロ
29	時系列解析 I（統計学的モデル）	4.5	3	プロ
30	【新】タイタニック（kaggleのコンペ）	4	4	プロ

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

経産省「DXリテラシー標準」対応コース

標準策定のねらい

働き手一人ひとりが「DXリテラシー」を身につけることで、
DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why

DXの背景

DXの重要性を理解するために必要な、社会・顧客・ユーザー、競争環境の変化に関する知識を定義

What

DXで活用されるデータ・技術

ビジネスの場で活用されているデータやデジタル技術に関する知識を定義

How

データ・技術の活用

ビジネスの場でデータやデジタル技術を活用する方法や留意点に関する知識を定義

DXリテラシーとして身に付けるべき知識の学習の指針とする

マインド・スタンス

- ✓ 社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動を定義
- 個人が自身の行動を振り返るための指針であり、組織・企業がDX推進や持続的成長を実現するために、構成員に求める意識・姿勢・行動を明らかにする指針とする

No	コース名	時間	対応ライセンス
1	DXリテラシー：Why ～DXの求められる背景～	1	ベース
2	DXリテラシー：マインド・スタンス ～ケーススタディで学ぶ、DXマインドとは？～	1	ベース
3	DXリテラシー：What (DXで活用されるデータ・技術) データ	1	ベース
4	DXリテラシー：What (DXで活用されるデータ・技術) デジタル技術	1.5	ベース
5	DXリテラシー：How (データ・技術の活用) 留意点	1	ベース
6	DXリテラシー：How ～データ・デジタル技術の活用事例と利用方法～	1	ベース
合計時間		6.5	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

ツール活用系：実務にすぐ活かせるツール関連コース

業務ツールの“使えるつもり”を見直して効率化
Word、Excelをより効率的に使う方法や、最新ツールの使用方法を実践的に学べるコース

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース = ベースライセンス、プロ = プロフェッショナルライセンス

使用ツール	No	コース名	時間	対応 ライセンス
Word	1	これだけはおさえないWord基礎	1	ベース
Excel	2	これだけはおさえないExcel基礎	1	ベース
	3	データインプット統一ルールのお勧め	1	ベース
	4	Excel VBA基礎（前編）	1	プロ
	5	Excel VBA基礎（後編）	1	プロ
RPA	6	定型業務を自動化しよう！概論編 RPA入門	1	ベース
	7	定型業務を自動化しよう！実践編 Power Automate for desktop入門	1	プロ
BI	8	Power BI基礎編 データ可視化と活用概論	1	ベース
	9	Power BI実践編 データ可視化と活用の実践	1.5	プロ
合計時間			9.5	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラム例 | 基礎カリキュラム

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース = ベースライセンス、プロ = プロフェッショナルライセンス

新しい価値を生み出す！DXの基礎

18.4時間

#	コース名	時間(h)	対応 ライセンス
1	10分でキャッチアップ_ DXとは	0.2	ベース
2	10分でキャッチアップ_ DX推進に必要なスキルとは	0.2	ベース
3	DXリテラシー：マインド・スタンス ～ケーススタディで学ぶ、DXマインドとは？～	1	ベース
4	DXリテラシー： Why ～DXの求められる背景～	1	ベース
5	DXリテラシー：How ～データ・デジタル技術の活用事例と利用方法～	1	ベース
6	DXリテラシー：What (DXで活用されるデータ・技術) データ	1	ベース
7	DXリテラシー：What (DXで活用されるデータ・技術) デジタル技術	1.5	ベース
8	DXリテラシー：How (データ・技術の活用) 留意点	1	ベース
9	これだけはおさえないWord基礎	1	ベース
10	これだけはおさえないExcel基礎	1	ベース

#	コース名	時間(h)	対応 ライセンス
11	データインプット統一ルールの勧め	1	ベース
12	定型業務を自動化しよう！ 概論編 RPA入門	1	ベース
13	未知の課題に立ち向かう： 課題設定力向上のすすめ	1.5	ベース
14	社会課題やメガトレンドをつかむ！ ビジネス調査入門	1	ベース
15	変革マネジメント ～ミドルアップで"壁"を越える～	1	ベース
16	ビジネスアナリシス概論： エンタープライズ変革に求められる力	1	ベース
17	ビジネス変革を起こすための ブランディング入門	1.5	ベース
18	事業継続のための サイバーリスクマネジメント概論	1.5	ベース
カリキュラム合計時間(h)		18.4h	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラム例 | 基礎カリキュラム

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース = ベースライセンス、プロ = プロフェッショナルライセンス

最新技術を業務に活かす！AIの基礎

3時間

#	コース名	時間(h)	対応 ライセンス
1	10分でキャッチアップ_ AIにできること	0.2	ベース
2	10分でキャッチアップ_ 生成AIとは	0.2	ベース
3	10分でキャッチアップ_ データサイエンスとは	0.2	ベース
4	10分でキャッチアップ_ 機械学習とは	0.2	ベース
5	ChatGPTで学ぶ プロンプトエンジニアリング入門	1	ベース
6	事例で学ぶ！ 生成AI組み込みで社内業務効率化	1	ベース
7	10分でキャッチアップ_ AIガバナンスとは	0.2	ベース
カリキュラム合計時間(h)		3	

あらためて確認！ITの基礎

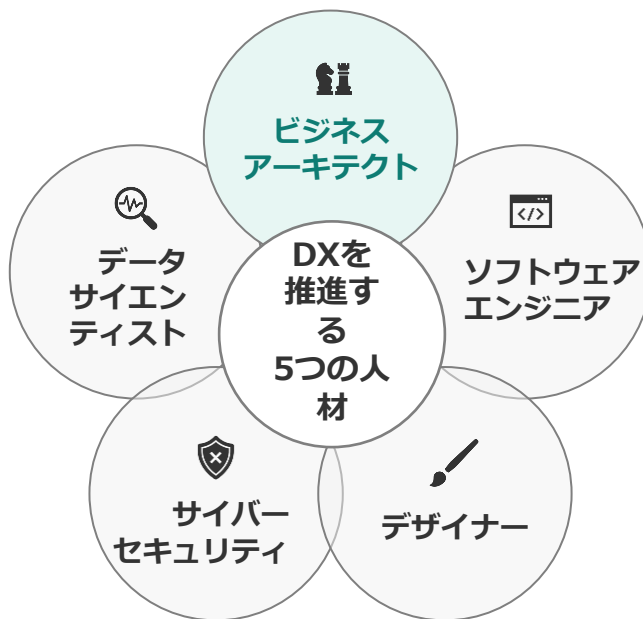
2.2時間

#	コース名	時間 (h)	対応 ライセンス
1	10分でキャッチアップ_ コンピュータとは	0.2	ベース
2	10分でキャッチアップ_ ソフトウェアとは	0.2	ベース
3	10分でキャッチアップ_ ネットワークとは	0.2	ベース
4	10分でキャッチアップ_ クラウドとは	0.2	ベース
5	10分でキャッチアップ_ サイバーセキュリティとは	0.2	ベース
6	事例で学ぶ！パーソナルデータ 活用のためのプライバシー保護	1	ベース
7	10分でキャッチアップ_ ITパスポート試験とは	0.2	ベース
カリキュラム合計時間(h)		2.2	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラム例 | 経産省「DX推進スキル標準」対応

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース= ベースライセンス、プロ= プロフェッショナルライセンス

ビジネスアーキテクト
(新規事業開発)新事業の目的を設計し
関係者を調整しながら推進

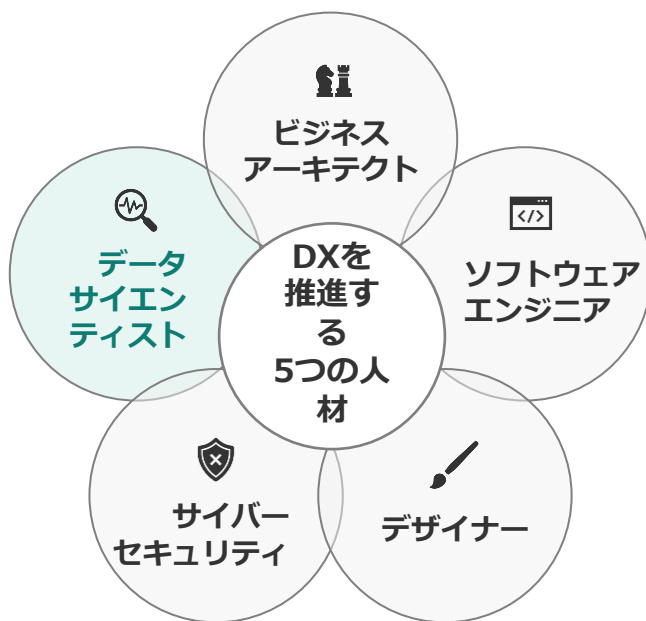
No	コース名	時間	対応 ライセンス
1	ビジネスを成功に導く：ポートフォリオマネジメントとスタートアップエコシステム構築	1	プロ
2	ビジネス変革に求められるプロダクトマネジメント	0.5	プロ
3	変革マネジメント ～ミドルアップで“壁”を越える～	1	プロ
4	複雑さに対応するためのシステムズエンジニアリング概論	1	プロ
5	エンタープライズアーキテクチャ：全体最適で事業を再構築する	1.5	プロ
6	プロジェクトマネジメント入門	1	プロ
7	社会課題やメガトレンドをつかむ！ビジネス調査入門	1	プロ
8	プロが伝える！新規事業の心構え	1.5	プロ
9	ビジネスアナリシス概論：エンタープライズ変革に求められる力	1	ベース
10	ビジネス変革に求められるプロダクトマネジメント	0.5	プロ
11	ビジネス変革を起こすためのマーケティング入門	1.5	プロ
12	ビジネス変革を起こすためのブランディング入門	1.5	ベース
13	UXデザイン概論 ～ユーザー中心設計を理解する～	1	プロ
14	UXデザイン実践 ～プロトタイプ作成～	1	ベース ※プロライセンス に移行予定
15	ビジネス統計学入門	2.5	ベース
16	事業戦略におけるデータ・AI活用	1.5	プロ
17	事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護	1	ベース
合計時間		20	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラム例 | 経産省「DX推進スキル標準」対応

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース = ベースライセンス、プロ = プロフェッショナルライセンス

★付きのコースは、半年後にベースライセンス対応コースから削除予定

データサイエンス
プロフェッショナルデータ解析で有益な知見を導き
業務やビジネスを変革

No	コース名	時間	対応ライセンス
1	UXデザイン実践～プロトタイプ作成～	1	プロ
2	ビジネス統計学入門	2.5	ベース
3	ビジネスパーソンのためのデータサイエンス入門	2	プロ
4	AIプロジェクトマネジメント	2	プロ
5	数学入門（線形代数）	2	プロ
6	数学入門（微分積分）	2	プロ
7	ビジネス統計学入門	-	ベース
8	【新】ライブラリ「Matplotlib」基礎（可視化）	4	プロ
9	データクレンジング	2.5	プロ
10	教師あり学習（回帰）	1	プロ
11	教師あり学習（分類）	3	プロ
12	時系列解析 I（統計学的モデル）	4.5	プロ
13	意思決定につなげる教師なしクラスタリング	3	プロ
14	ネットワーク分析入門	4.5	プロ
15	異常検知入門	5.5	プロ
16	Power BI基礎編 データ可視化と活用概論	1	プロ
17	現場で役立つPython×数理最適化：入門編	2	プロ

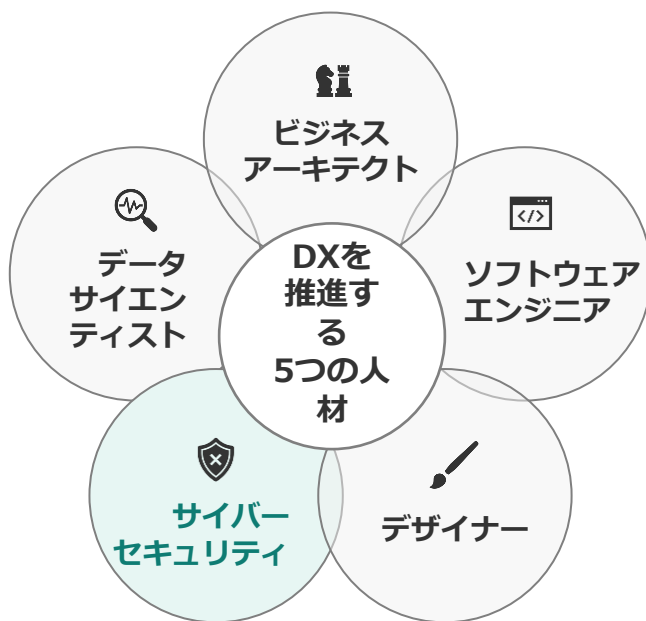
No	コース名	時間	対応ライセンス
18	製造業におけるシミュレーション実践	1.5	プロ
19	機械学習概論★	1.5	ベース
20	教師あり学習（回帰）	1	プロ
21	教師あり学習（分類）	3	プロ
22	教師なし学習	2.5	プロ
23	ディープラーニング基礎★	3	ベース
24	スクラッチ実装して理論を体得する強化学習	6	プロ
25	自然言語処理基礎	3.5	プロ
26	CNNを用いた画像認識	3	プロ
27	深層学習の適用（音声認識）	2	プロ
28	ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門	1	ベース
29	生成モデル	3	プロ
30	深層学習の適用（WaveNet）	1.5	プロ
31	コンピュータサイエンス入門	1.5	プロ
32	生産性を高める チーム開発入門	1.5	プロ
33	事例で学ぶ！ パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護	1	ベース
合計時間		79	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラム例 | 経産省「DX推進スキル標準」対応

※対応ライセンスの欄は、対応ライセンス：ベース = ベースライセンス、プロ = プロフェッショナルライセンス

★付きのコースは、半年後にベースライセンス対応コースから削除予定



サイバーセキュリティエンジニア

サイバー対策を導入・運用し
事業の安定を支える

No	コース名	時間	対応ライセンス
1	コンピュータサイエンス入門	1.5	プロ
2	生産性を高める チーム開発入門	1.5	プロ
3	ソフトウェアエンジニアのための設計手法 基礎	1.5	プロ
4	「早めのテスト」で開発の質とスピードを改善！ソフトウェアテストの実践	1.5	プロ
5	全体像がよくわかる！アジャイル開発入門	1.5	プロ
6	ゼロから始めるWebアプリケーション開発	1.5	プロ
7	ゼロから始めるフロントエンドシステム開発	1.5	プロ
8	クラウド入門	1	プロ
9	明日から活かす、DevOps	1.5	プロ
10	定型業務を自動化しよう！概論編 RPA入門	1	ベース
11	定型業務を自動化しよう！実践編 Power Automate for desktop入門	1	プロ
12	現実世界をデジタル化してDXを推進！フィジカルコンピューティング	1.5	プロ

No	コース名	時間	対応ライセンス
13	ブロックチェーン入門	1	プロ
14	Web3入門	0.5	プロ
15	ブロックチェーン基礎★	2	ベース
16	ブロックチェーン発展I	4	プロ
17	ブロックチェーン発展Ⅱ	3	プロ
18	ブロックチェーン発展Ⅲ	3	プロ
19	DX推進におけるセキュリティマネジメント 基本知識編	1	プロ
20	事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論	1.5	ベース
21	事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護	1	ベース
22	ゼロトラスト・セキュリティ概論	1.5	プロ
23	エンジニアのためのセキュリティ入門	1	プロ
合計時間		36	

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

全社員が「最新の生成AIスキル」にアクセスできる



**フレッシュな生成AIの
学びを、全社員に**

生成AIコンテンツは
ベースライセンスに含まれる



**年間50本以上の
新コースをリリース予定**

技術進化や業務に即応した
実践的コースを追加



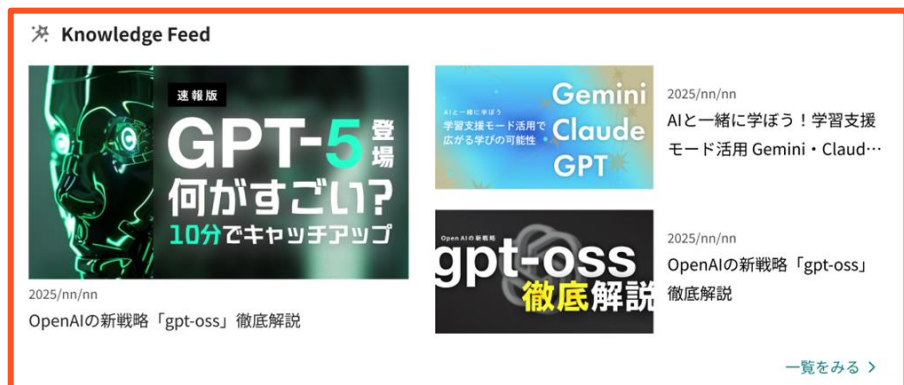
**3ヶ月に1回以上
のアップデート**

最新トレンドにあわせて
中身を更新し、陳腐化を防止
(「ChatGPT入門」「Copilot入門」コースなどが対象)

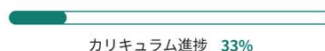
DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

日々の業務の流れの中で自然に取り入れられる『Knowledge Feed(β版)』

生成AIを中心とした最新トピックスをご提供
ベースライセンスで閲覧可能



学習状況



ライセンス期限: 2022年9月24日まで



トレンドの変化をいち早くキャッチし、
現場で即活用できるマテリアルを
スピーディーにご提供。
組織の学びをもっと柔軟に、もっと身近に。

※ Knowledge Feed は、カリキュラム設定および受講進捗データには反映されません。

※ 配信は YouTube を使用して行う予定です。ご利用企業のポリシーや視聴環境によっては閲覧できない場合があります。将来的には Aidemy Business 内の標準動画配信環境へ切り替える予定です。

※上記画像は開発中のもので実際の画面と異なる可能性があります。

全社 × 特定部門、それぞれに最適な“学びのかたち”

ベース・プロフェッショナルの組み合わせで無駄なく育成

ベースライセンス
(プランの基本料金のみ)

全社で押さえたい
“エントリー教育”を網羅

【短時間で要点だけ】10分キャッチアップ

【DSS準拠】DXリテラシー標準

【日常業務の底上げ】Excel・Word 基礎

【最新の重要トピック】生成AI

ベースライセンスに含まれる内容だけで
全社リテラシー教育が実現可能

プロフェッショナルライセンス
(1人あたりの追加ライセンス)

部署・テーマ別の“高度教育”
をピンポイントで展開

各本部 | 本部長向け
データ活用・生成AI理解

生産技術部 | 担当者向け
現場課題の見える化×生成AIでの改善設計に向けた学習

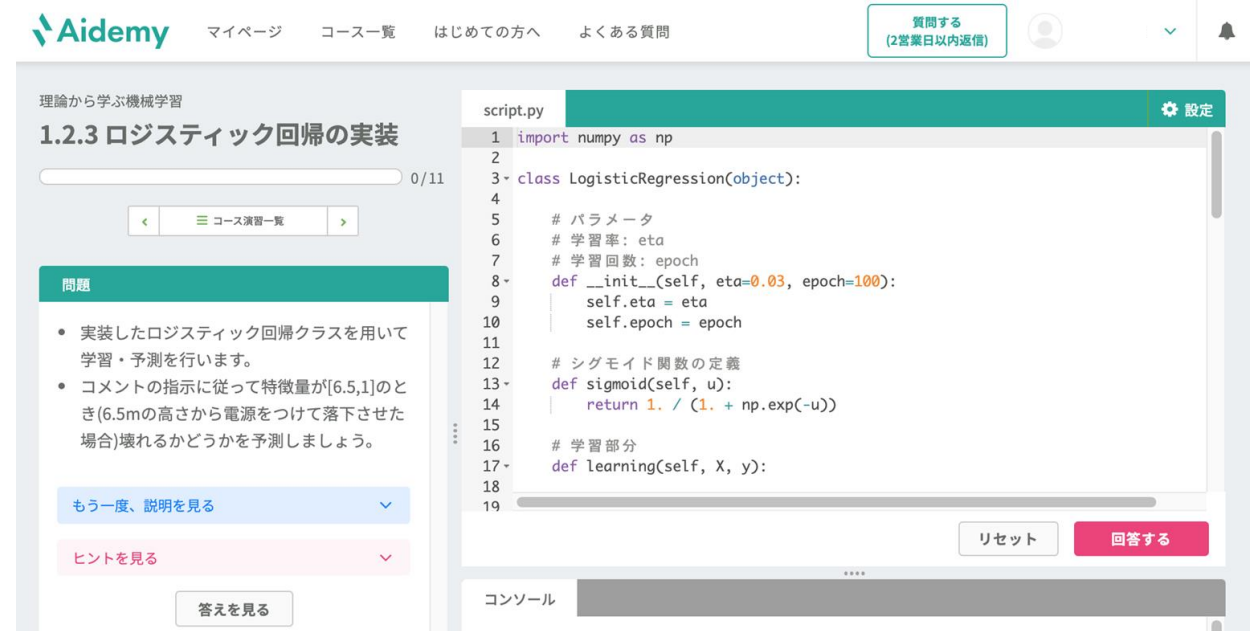
研究開発部 | 担当者向け
ナレッジ検索やレポート自動化に向けた学習

必要な人に、必要なだけ
深く学ばせる設計が可能



継続学習・知識定着を支援するシステム

受講者向け機能

マルチデバイス対応の
動画視聴環境構築不要の
プログラミング演習

動画コースは複数チャプターから構成され、隙間時間でも学習がしやすい仕組み。



プログラミング学習で挫折しやすいポイントである環境構築が不要。
プログラミング初学者でも学びやすい仕組み。

継続学習・知識定着を支援するシステム

受講者向け機能

不明点はその場で質問(質問箱機能)

質問する
(2営業日以内返信)

受講画面の右上にあるボタン



質問箱

学習中に困ったこと、何でもご質問ください。
2営業日以内にお答えいたします。

ご質問内容

こちらにご入力ください

返信用メールアドレス

sample@aidemy.co.jp

送信する



24時間いつでも質問可能



質問回数の制限なし



2営業日以内に
チューターから回答が届く

継続学習・知識定着を支援するシステム

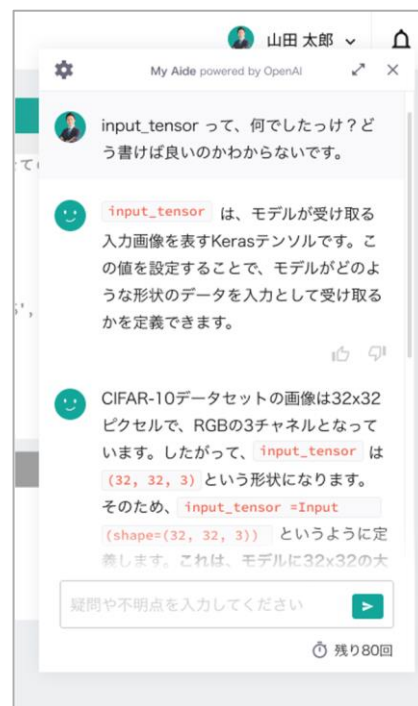
受講者向け機能

パーソナルAIアシスタント「My Aide」

機能1

演習中に気になった点や不明点について
その場でAIに質問して、回答を得ることができる

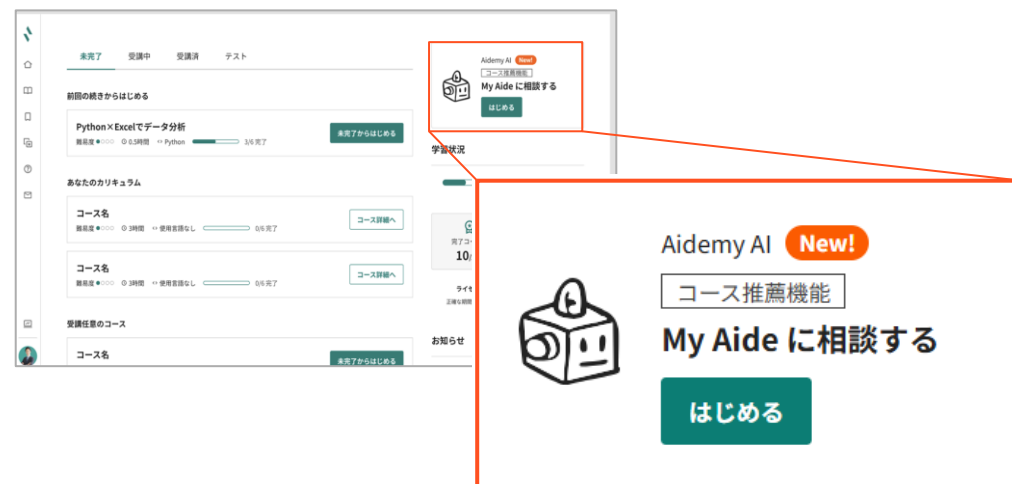
コース受講画面



機能2

受講履歴をもとに、おすすめのコースを推薦

受講者マイページ



My Aide 注意事項

- ・ MyAideはPCのみで利用可能です。※タブレットやモバイルには非対応
- ・ 月100回まで（1人）／1メッセージ＝1回 ※毎月1日リセット・翌月繰越なし
- ・ おすすめされたコースの受講にプロフェッショナルライセンスが必要な場合があります。

継続学習・知識定着を支援するシステム

テスト機能

受講者メリット | 知識定着のサポートになる

管理者メリット | 受講者の習熟度がわかる

▼テスト受験画面

エンジニア (アセスメント) 残り時間 28:34

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

テストを終了する

問題4

人工知能に関する説明文のなかで、正しいものを選んでください。

選択肢

☐ 人工知能(AI)アルゴリズムには、If-Then形式のみで知識表現を行うものも含まれる。

☐ 機械学習(マシンラーニング)手法のなかの一部が深層学習(ディープラーニング)手法です。

☐ 機械学習は大量のデータからパターンを読み取り、問題を解決する手法です。

☐ 人工知能は画像、音声、マーケティングなどの様々な分野で活用されます。

☐ 上記の選択肢すべて

スキップ 回答する

▼テスト結果確認

問1

DQNについて述べた分として誤ったものを選んでください。

☒ Q学習は行動価値関数を推定するアルゴリズムである。

☐ 行動価値関数はテーブルの形で表現される。

☐ Q関数のサイズは、状態や行動の数に関わらず一定ではない。

☐ DQNの論文では収束の保証がないQ学習の成功を証明した。

☐ 上記のどれも当てはまらない

深層強化学習発展 > DQN

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

✖ ○ ○ ✖ ✖ ○ ○ ✖ ○ ✖ ✖ ✖ ✖ ✖ ✖ ○ ○

出題の元となった
コースに遷移・復習可能

▼テスト受験者管理画面

テスト受験者管理 CSVダウンロード

受験者を設定するテスト: ビジネスサイド(アセスメント) 受験期間(設定): 2021/10/18~2023/02/09 合格ライン(設定): 70% 受験者を一括設定する: テスト対象一括設定(CSV)

カリキュラム: 全て 所属: 全て タグ: 全て 受講ライセンス: すべて あり なし お名前の一部を入力して絞り込みます

お名前	カリキュラム	所属	タグ	テスト対象 (全て選択)	得点	再テスト対象 (全て選択)	再テストの得点
山田	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☒	7/20 (2022/07/22)	☐	10/20 (2022/09/15)
田中	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☒	0/20 (2022/10/18)	☐	
伊藤	AI/MLディレクター	営業	第一期	☒			
仲村	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☐			



カリキュラムごとにテスト作成
(出題コース, 問題数, 合格正答率, 制限時間等が設定可)



テスト不合格の受講者が
再テストを受けられる機能あり

継続学習・知識定着を支援するシステム

管理者向け機能

受講進捗管理
(CSVでダウンロード可)

CSVデータから
分析できる内容

▼受講者ごとのカリキュラム進捗確認画面



カリキュラム・所属・タグ・ライセンス有無ごとに
該当する受講者のカリキュラム進捗一覧が確認可能

CSV項目

分析からわかる内容

総学習時間

人材育成のKPIに利用可能な
受講者の学習時間がわかる

カリキュラム内
のコース進捗率

コースの学習途中で
離脱しているコースから、
苦手分野の傾向がわかる

演習問題で
初回正解するまでの
不正解回数

受講者の得意・不得意分野
の傾向がわかる

カリキュラム外
のコース進捗率

カリキュラム以外で
受講者が興味の
持っている分野がわかる

実践知に触れられる機会の提供 1/2

クライアント限定のイベントにご招待



**WEB上にはない
リアルなDX人材育成担当者の体験談が聞ける**

下記テーマについて、
ユーザー企業、DX推進企業様にご登壇

テーマ例：
人材育成・Aidemy Businessご活用方法や実務への活かし方



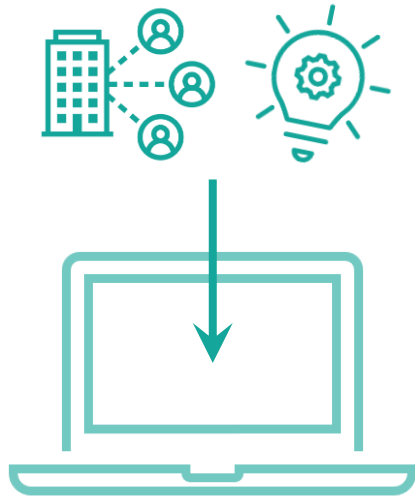
**ユーザー企業、DX推進企業の担当者様同士で、
DXに関して情報交換ができる**

ユーザー会の様子



実践知に触れられる機会の提供 2/2

実際の課題をもとに作られた、他社発“オーダーメイド教材”



- ✓ 各社の現場課題に基づき作成されたオーダーメイド教材をAidemy Business上で閲覧可能
- ✓ 形式知ではない、現場の「悩み,工夫,ノウハウ」が詰まった“血の通った”学びにアクセス

年間500万円以上のご契約企業様向け

- 年1本のオーダーメイド教材が作成可能
(希望に応じて、他社への共有・非公開の選択も可能)
- 専任担当による定例支援
(例:育成の中間観測、受講状況/課題に対する施策の提案)

ベースライセンスコース一覧 (1/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
1	ChatGPTで学ぶプロンプトエンジニアリング入門	1	1	ChatGPTをはじめとする生成AIを使うための指示文の書き方（プロンプト）を学ぶコースです。生成AIについての基本事項を理解し、業務のなかで効果的に生成AIを活用できるようになることを目指します。
2	【新】ChatGPT入門	0.5	1	ChatGPTを始める第一歩として、ChatGPTの概要と基本的な操作方法をご紹介します。より良い回答を得るポイントや、ChatGPTを活用するうえでの注意点について解説します。
3	Microsoft Copilot入門	1	1	「Copilot」はMicrosoftが提供する生成AIです。本コースではWebブラウザで無料で使える「Microsoft Copilot」と法人向けで有料の「Copilot for Microsoft 365」の基本操作を解説します。
4	事例で学ぶ！生成AI組み込みで社内業務効率化	1	1	銀行でのチャットボット、予備校での英文添削、経理処理の効率化といった事例をもとに、生成AIに解決できる課題をイメージし、導入プロセスを理解します。ChatGPTなどの生成AIを「使う」ところから一歩踏み込み、「社内システムに組み込む」ことでさらなる業務効率化を実現しましょう。
5	10分でキャッチアップ_AIガバナンスとは	0.2	1	生成AIが急速に進むいま、AIに関する規制や標準化、ガイドラインの策定が急務とされています。このコースでは、AIガバナンスの重要性と各地域ごとの取り組みについて10分にまとめて紹介します。
6	10分でキャッチアップ_AIにできること	0.2	1	DX推進に貢献する技術として注目されるAI。本コースではAIの定義からAIの仕組み、現在のAIにできることを10分にまとめて紹介します。
7	10分でキャッチアップ_AI拡張型開発とは	0.2	1	AI技術を活用したアプリケーションの設計、コーディング、テストなど、ソフトウェア開発プロセス全体をAIが支援する「AI拡張型開発」が注目を集めています。このコースでは、AI拡張型開発の定義や主要な特徴、そして今後の展望について10分にまとめて紹介します。
8	10分でキャッチアップ_DXが求められる背景	0.2	1	DXの重要性を理解するには、社会、顧客価値、競争環境がそれぞれどのように変化しているかを把握する必要があります。本コースではDXが重要視される背景について、10分にまとめて紹介します。
9	10分でキャッチアップ_DXで活用されるデータとは	0.2	1	DXに必要な知識であるデータについて、10分にまとめてご紹介します。データの重要性、DXとの関係性、データ活用のポイント、効果的なデータ活用の方法などを分かりやすく解説しています。
10	10分でキャッチアップ_DXとは	0.2	1	今後の組織運営を考える上で、DXへの取り組みは避けて通れません。本コースではDXの定義から具体的な事例、現在の日本における課題などを10分にまとめて紹介します。
11	10分でキャッチアップ_DXに必要なマインド・スタンスとは	0.2	1	DXに必要なのは、技術や知識だけではありません。激しい社会変化のなかで新たな価値を生み出す土台となる考え方や姿勢（マインド・スタンス）について、10分にまとめて紹介します。
12	10分でキャッチアップ_DX推進に必要なスキルとは	0.2	1	「DX推進スキル標準」の内容を知らない、またはDX推進にあたって専門人材確保に課題感をもっている方に向けて、DXに必要な人材・スキルの考え方を10分にまとめてご紹介します。デジタルスキル標準「DX推進スキル標準」の概要・内容構成を理解することで、自社に必要なDX人材のイメージを描きましょう。
13	10分でキャッチアップ_GXとは	0.2	1	GXやカーボンニュートラルについて、聞いたことはありますか？ いずれも「地球の気候変動対策のために、二酸化炭素のような温室効果ガスを減らしていくこと」を表す言葉です。本コースでは、身近なGXの事例を挙げながら、キーワードの定義や意味、必要な技術、抱える課題などを10分にまとめてご紹介します。
14	10分でキャッチアップ_ITパスポート試験とは	0.2	1	「ITパスポート試験って、どんな内容？」「どんな勉強をすればいいの？」そんな疑問に答える解説動画です。試験の概要や合格のメリット、効果的な対策方法を、わかりやすくギュッと凝縮してお届けします。これから受験を考えている方や、今まさに勉強を始めようとしている方は、ぜひ、ご覧ください！
15	10分でキャッチアップ_Jetsonとは	0.2	1	AIを動かすためにはどのようなコンピュータが使われているのでしょうか。本コースでは、機械学習の「推論」のフェーズで企業から個人まで幅広く活用されている、NVIDIAが提供する小型で高性能なコンピュータ「Jetson」について10分にまとめて紹介します。
16	10分でキャッチアップ_Pythonとは	0.2	1	汎用性の高いプログラミング言語として知られるPythonについて、10分にまとめてご紹介します。Pythonの歴史や特徴、応用範囲や今後の展望について理解を深めましょう。

ベースライセンスコース一覧 (2/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
17	10分でキャッチアップ_SX・GX・DXの関係性	0.2	1	持続可能性や環境への意識が高まり、SXやGXという言葉を目にする機会が増えたのではないのでしょうか。このコースではSX、GX、DXという言葉の意味、それらの関係性について10分にまとめて解説します。
18	10分でキャッチアップ_クラウドとは	0.2	1	クラウドとは何かを10分にまとめてご紹介します。クラウドのメリットと実際の活用例を解説し、ビジネスにおけるクラウド活用の理解を深めます。クラウドがわからない方も迅速にキャッチアップできる内容です。
19	10分でキャッチアップ_コンピュータとは	0.2	1	コンピュータとは何かを10分にまとめてご紹介します。「最初のコンピュータ」はどんなものだった？ 内側はどうなっている？ 炊飯器にも搭載されているの？ といったところから紐解いて、コンピュータがどんなところで、どのような役割を果たしているかイメージできるようにすることを目指します。
20	10分でキャッチアップ_サイバーセキュリティとは	0.2	1	年々高まる身近なサイバーセキュリティリスクについて、10分にまとめてご紹介します。セキュリティの基本的な仕組みと個人がとるべき対策について理解を深めましょう。
21	10分でキャッチアップ_ソフトウェアとは	0.2	1	実は多くの人が日々恩恵を受けているけれどよくわからない「ソフトウェア」について、10分で解説します。ハードウェアとの違いや、コンピュータのなかでの役割、パソコン以外で使われているソフトウェアについても紹介。受講後はソフトウェアを少し身近に感じられるようになるはずです。
22	10分でキャッチアップ_データ・デジタル技術の活用方法・事例	0.2	1	経産省が策定した「DXリテラシー標準」で示されている「How データ・技術の利活用」のうち、とくに生成AIを取り上げて事例と活用法を10分でご紹介します。あまり触れたことのない方も、具体例を知ることによって生成AIをはじめとする技術やツールをご自身の業務で活用できないか、考えるきっかけとしてみてください。
23	10分でキャッチアップ_データサイエンスとは	0.2	1	「データサイエンスって何？」「データサイエンティストって何をやる人？」そんな疑問を10分で解決！本コースでは、データサイエンスの基本から活用事例、プロジェクトの進め方までをわかりやすく解説します。全体像をつかみ、次の学びにつなげられる内容です。データを使った意思決定に興味がある方は、ぜひご覧ください！
24	10分でキャッチアップ_ネットワークとは	0.2	1	インターネットなどを利用する際の基礎知識として、ネットワーク・インターネットの仕組みを10分でご紹介します。また、モノのインターネットと呼ばれるIoTについても具体例を交えて解説しています。
25	10分でキャッチアップ_機械学習とは	0.2	1	機械学習の仕組みを10分にまとめてご紹介します。機械学習を初めて学ぶ人が、機械学習の基本的な仕組みを把握し、活用シーンをイメージできるようにすることを目指します。
26	10分でキャッチアップ_生成AIとは	0.2	1	ChatGPTのリリースを皮切りに、さまざまなサービスや活用方法が生まれ続けている生成AI。このコースでは、生成AIとは何か、生成AIの課題、生成AI市場の動向について10分にまとめてご紹介します。
27	DXリテラシー：How ～データ・デジタル技術の活用事例と利用方法～	1	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「How」（データ・技術の利活用）の理解を深めるため、「活用事例・利用方法」について紹介します。
28	DXリテラシー：How（データ・技術の活用）留意点	1	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「How」（データ・技術の活用）の理解を深めるため、DX推進における留意点について紹介します。
29	DXリテラシー：What（DXで活用されるデータ・技術）データ	1	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「What」（DXで活用されるデータ・技術）の理解を深めるため、「データ」を取り扱うための知識を紹介します。

ベースライセンスコース一覧 (3/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
30	DXリテラシー：What（DXで活用されるデータ・技術）デジタル技術	1.5	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「What」（DXで活用されるデータ・技術）の理解を深めるため、ビジネスの場で活用されているデジタル技術「AI」「クラウド」「ハードウェア・ソフトウェア」「ネットワーク」を取り扱います。
31	DXリテラシー：Why ～DXの求められる背景～	1	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「Why」（DXの背景）を理解するため、「社会」「顧客価値」「競争環境」における3つの変化を紹介します。
32	DXリテラシー：マインド・スタンス ～ケーススタディで学ぶ、DXマインドとは？～	1	1	働き手一人ひとりのデジタルリテラシー向上、そして各自が変革に向けて行動できることを目指し、経済産業省は学びの指針となる「DXリテラシー標準」を策定しました。DXリテラシー標準は、「Why」「What」「How」「マインド・スタンス」の4項目から成り、必要なスキルや知識、マインドセットが体系的に示されています。本コースでは、「マインド・スタンス」に示される7つの要素について紹介します。
33	これだけはおさえたいExcel基礎	1	1	Excelでデータを加工、集計、分析するには、データベースとなる明細のリスト表をきちんと作成する必要があります。ミスがなく入力しやすい表を作成すること、そして求める集計表を素早く作成できることが効率化につながります。本コースでは、Excelを使用するうえで意識しなければならない考え方と基本操作をご紹介します。
34	これだけはおさえたいWord基礎	1	1	Wordでビジネス文書を作成する際、「素早く」「見やすく」を心掛けることが重要です。箇条書きや図の設定、繰り返し使う形式のテンプレート化、変更履歴といった機能を正しく活用することで、日々の文書作成が効率的になります。本コースでは、Wordを使用するうえで意識しなければならない考え方と基本操作をご紹介します。
35	定型業務を自動化しよう！概論編 RPA入門	1	1	「業務自動化を進めたいが、何から着手すべきかわからない」と悩むビジネスパーソンにおすすめです。RPAの基本、何ができるのか、成功事例などを学びます。自らの業務における課題を洗い出し、その課題をRPAによってどう自動化するかをイメージできるようになるところまでを目指します。
36	Power BI基礎編 データ可視化と活用概論	1	1	BI（ビジネスインテリジェンス）とは、社内にある大量のデータを統合・可視化し、経営や営業などあらゆる企業内活動でスピーディな意思決定を促進するためのツールです。全社的にBIツールを使いこなすことにより、データを元にした意思決定を社内文化として根付かせることができ、全社的なDXを加速させることが可能となります。本コースでは、Microsoft Power BIを具体例として、データ可視化に必要な基本的な考え方と手順について解説します。
37	ビジネス統計学入門	2.5	1	ビジネスで「データを活用できるようになりたい」方を受講対象者としています。まずはビジネスでデータを活用するためのポイントを押さえ、次に、統計学の難解な理論や数式は極力抑えつつ、データ分析のポイントである「グラフ化」「関係を見つける」「数値の予測」の基本を学びます。実際にExcelを用いた演習も含むので、ビジネス現場ですぐ役立つ内容です。
38	ビジネス数学	1	1	【英語版コース有り】ビジネスでは数学を実践的に扱うことが多々あります。そこで、本コースでは実際のビジネスで役立つ数学的手法をいくつか紹介します。
39	データインプット統一ルール の勧め	1	1	DXにおいて、データ利活用は欠かせないテーマです。利活用のためには、機械判読可能な構造化されたデータである必要があります。本コースでは、総務省が示す「統計表における機械判読可能なデータの表記方法の統一ルール」に基づき、データ作成時の留意点について解説します。データインプットにおける統一ルールの重要性を学びましょう。
40	はじめてのAI	1	1	人工知能、AI、機械学習、ニューラルネットワーク、ディープラーニング…これらの言葉が世間ではよく聞かれるようになっていきます。よく聞く言葉だけれども、よくわからない、自分の身近なものではなさそうと思っている方も多いのではないのでしょうか。本コースでは、AIに関わる基本知識だけでなく、事例や具体的にそれがどのような仕組みで動いているかも紹介します。AIの基礎を理解し、AIをどう活用できるかのヒントがつかめるように、本コースで学びます。

ベースライセンスコース一覧 (4/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
41	はじめての働き方改革	1	1	働き方改革の進め方に不安を持つ方だけでなく、働くすべての方にとって、「働く」をもっと良いものにする方法を学びます。Googleをはじめとするさまざまな企業の実証研究の知見とそこから生まれたツールをご紹介します。新しい働き方の導入方法をご紹介します。
42	未知の課題に立ち向かう：課題設定力向上のすすめ	1.5	1	DXプロジェクトの成功には、ビジネス課題を見抜く鋭い洞察力が必要です。思い描く理想に到達するために、視座、視野、視点の観点から広範な事象を俯瞰し、本質的な課題を見極める力が求められています。本コースを通じて、未知の課題に立ち向かうために必要な概念を習得しましょう。
43	事例で学ぶ！デジタル業務改善	1	1	「生産性を高める」とよく言われますが、具体的に何から始めればよいのでしょうか。本コースでは、業務効率アップの基本の考え方から業務フローの改善企画の方法までを解説します。加えて、12の事例と詳しいツール活用例も紹介します。解説を参考に自身の業務改善を企画し、生産性向上の第一歩を踏み出しましょう。
44	事例で学ぶ！デジタル業務改善 2025年度版	1.5	1	DX時代において「生産性向上」や「省力化」が求められる中、具体的に何から着手すればよいのでしょうか。本コースでは、業務効率化の基本的な考え方から、業務フロー改善の企画手法までを分かりやすく解説します。さらに、12の具体的な事例と実践的なツール活用例を紹介し、実際の業務にどのように適用できるのかを学びます。本コースを通じて、自社の業務改善を企画し、生産性向上への第一歩を踏み出しましょう。
45	事例で学ぶ！DX事業立案	3.5	1	本コースは、DXを前提とした事業を立案するための研修である「DX事業立案ワークショップ」の講義部分を動画にしたものです。新規DX事業の企画構想を担当している方向けに、事業立案のポイントを豊富な事例の解説を踏まえながら実践形式で学んでいただけます。
46	事例で学ぶ！DX事業立案：最新事例集（2023年版）	0.5	1	DX事業における最新事例を集め、データ・デジタル活用の観点で7つの要素にわけて紹介します。多くの新しい事例とその要点を理解することができます。DX事業の立案方法について実践形式で解説したコンテンツ「事例で学ぶ！DX事業立案」の事例紹介部分のアップデート版としてご活用ください。 ※本コースは「事例で学ぶ！DX事業立案」の追加コンテンツです。単独でも受講いただけますが、DX事業立案の全体像をつかむため、「事例で学ぶ！DX事業立案」を事前に受講することをおすすめします。
47	事例で学ぶ！衰退産業のビジネスモデル変革	1	1	あらゆる産業で起きている市場変化に対し、ビジネスモデル変革が急速に求められています。衰退産業におけるビジネスモデル変革の成功・失敗事例を通じて、なぜデジタルによるビジネスモデル変革が必要なのかを理解しましょう。本コースを通じて、自社および自身の業務の方向性を振り返ってみてはいかがでしょうか。
48	ビジネスアナリシス概論：エンタープライズ変革に求められる力	1	1	ビジネスアナリシスとは、事業戦略や経営計画をはじめ、ビジネスの現場で起きるさまざまな課題を分析し、その解決策を明確にしたうえで、社内外の力も借りながら組織変革を実現する活動です。あらゆる企業変革において求められる考え方であるため、近年注目を集めています。本コースでは、ビジネスアナリシスの根幹である要求を明確にする流れをご紹介します。
49	変革マネジメント ～ミドルアップで"壁"を越える～	1	1	DXの取り組みに対し、期待する成果をあまり実感できていないとすれば、それは企業内にさまざまな組織に共通する「壁」が立ちはだかっているのかもしれませんが。本コースでは、企業変革が進まない要因として、意識、組織、経営の3つの障壁を取り上げ、典型的な症状や構造、それらの「壁」を乗り越えるための各種アプローチをご紹介します。
50	VUCA時代のリーダーシップ	1	1	価値観が多様化し、予測困難になったVUCAの時代では、これまでのやり方が通用しない場面が増えています。「部下が思うように動かない」「成果につながらない」といった場面に直面したとき、リーダーに求められるのは、状況を見極め、ビジョンを示し、価値を生み出す力です。本コースでは、VUCA時代におけるリーダーシップのあり方と、すぐに実践できる具体的な手法を学びます。
51	ビジネス変革を起こすためのブランディング入門	1.5	1	ブランディングについて基本から学びたい人のためのコースです。ブランディングが求められる背景、ブランド体系、ミッション・ビジョン・バリューといったポイントを事例とともに理解し、要件整理から社内外に浸透させるまでをステップごとに見ていきます。最後に自分自身をブランディングする演習で実践力を身につけます。

ベースライセンスコース一覧 (5/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
52	隠れたニーズを掘り起こす！ソリューション提案のための要件定義	1	1	本コースでは、営業担当者として顧客の課題を解決するソリューション提案を行うための基本を学びます。顧客へのヒアリングを通じて「ウォンツ」の背景にある本質的な「ニーズ」をつかみ、求められるソリューションの仮説を作り、検証し、提案資料に落とし込むまでの一連の流れを身につけることを目指します。
53	社会課題やメガトレンドをつかむ！ビジネス調査入門	1	1	「良い調査」の条件はなんだと思いますか？ 本コースでは、ビジネス調査の基本を学びます。調査設計、PEST、3C、5Forcesといったフレームワークの使い方などを解説し、テクノロジーを活かした調査手法もご紹介します。手順や情報を集める際のポイントを理解し、自信を持って調査を実施できるようになることを目指します。
54	UXデザイン概論 ～ユーザー中心設計を理解する～	1	1	顧客の満足度や利用継続性を向上し、競争優位性を築くのに貢献するUXデザインは、製品やサービスが成功するために極めて重要な観点です。概論編の本コースでは、サービスを企画し、設計・実装に携わる方を対象に、なぜユーザー中心の考え方が必要なのか解説します。UXの基本的な考え方を理解することを目指します
55	システム開発における業務要件定義の勘どころ	2	1	プロジェクトの成功に不可欠な要件定義のやり方を学びます。要件収集、分析、文書化の方法を習得し、効率的で効果的なシステム設計の基盤を築けます。
56	製造業のためのデータサイエンス活用講座 1：データサイエンスで広がる研究開発と製造の未来	1	1	製造業で研究開発に携わる方が対象です。データサイエンスで実現できることを具体例とともにご紹介します。故障の予測、原因の絞り込み、条件の最適化、時系列データの分析といった事例を通じて、データサイエンスをご自身の業務に活かすイメージをつかみ、はじめの一歩を踏み出してください。
57	事業継続のためのサイバーリスクマネジメント概論	1.5	1	ビジネス職・エンジニア職を問わずセキュリティマネジメントを担う初心者に向けて、セキュリティインシデント対策の考え方と対応方法の概要をお伝えします。DX時代のセキュリティリスクの例を交えながら、事業継続性を高めるための基本的な取り組みについて解説し、自社に引き寄せて考えていただくことをゴールとしています。
58	事例で学ぶ！パーソナルデータ活用のためのプライバシー保護	1	1	プライバシー保護対策は「コスト」ではなく、自社の価値を高めるものです。本コースでは、企業トラブルの事例を通じて注意点を押さえ、法律やリスク低減のフレームワークを学ぶことで、DX推進の守りに強くなることを目指します。サイバーセキュリティに携わる方、パーソナルデータを利活用する方が対象です。
59	AWS で機械学習の開発運用を効率化する：AWS AI/ML Enablement Series Dark Part	6	4	AWSの機械学習サービス、Amazon SageMakerを用いた機械学習の開発運用プロセスを効率化する方法を解説します。機械学習モデルを本番環境へリリースし運用するまでの各プロセスで発生する課題とAmazon SageMakerによる課題解決策を解説します。学習結果やモデルの管理、デプロイ、運用監視といったいわゆるMLOpsと呼ばれる話題を扱います。 ※機械学習モデルの開発・運用を行う前提のため機械学習プロジェクト自体を開始する方法は「AWS で機械学習の開発運用を効率化する：AWS AI/ML Enablement Series Light Part」を受講してください。
60	機械学習活用プロジェクトの進め方：AWS AI/ML Enablement Series Light Part	4	3	機械学習を自社の製品で活用するためのプロジェクトの進め方を解説します。プロジェクトのビジネス目標設定から評価までの各プロセスで必要になる実装技術に加え、関係する様々な職種の方とのコミュニケーション方法も学びます。Pythonを用いた実装は無料で利用できるAmazon SageMaker Studio Labを使った演習、コミュニケーションはロールプレイによる演習を通じ学びを深めます。 ※本コース受講後、本格的な機械学習モデル開発をAWSで行う場合「AWS で機械学習の開発運用を効率化する：AWS AI/ML Enablement Series Dark Part」の受講を推奨します。

ベースライセンスコース一覧 (6/6)

※コースは今後追加、クローズにより入れ替わる可能性があります

No	コース名	時間	難易度	内容
61	【アイデミー主催】DXを加速させるためのたった1つのポイント	1	1	2022年4月19日に開催した「DXを加速させるためのたった1つのポイント」セミナーの動画です。
62	【アイデミー主催】利用者向けセミナー～市場価値が高まるDX人材への第一歩～	1.5	1	2021/9/29に実施されたアイデミー主催の利用者向けセミナー動画です。DXの必要性を知り、実際にAidemy Business Cloudのコースに取り組むことで学習スタートの第一歩を踏み出していただくことをテーマとしたセミナーになります。【内容】①DXの必要性、学習の意義の再確認、② Aidemy Business Cloudの「ビジネス統計学入門講座」の演習問題の一部を実施。【このセミナー視聴をお勧めする方】これからDX人材を目指して学習を始められる初学者の方、DXに関してまず何かを始めればよいか迷われている方。こちらのExcelファイルを使用しますので、あらかじめダウンロードしてお手元にご準備いただいたうえでご視聴いただくことをお勧めします。
63	【広告】 Aidemy Premiumのご紹介	0.1	1	Aidemy Premiumのご紹介動画です。Aidemy Premiumは、AIエンジニアを目指す方のための、バーチャルOJTサービスです。「実践的な演習に挑戦したい」「実データを使ったPoCに取り組みたい」「経験者のアドバイスが欲しい」とお考えの方にピッタリの学習サービスとなっております。ご興味をお持ち顶きましたら、是非こちらからオンライン相談会へお越しください。

導入事例



全社員対象のDXリテラシー研修を実施

キヤノン株式会社

全社的なDX教育に向けたAidemy Businessの活用 | ニーズに合わせたコンテンツの制作・提供

全社教育の背景



現場主体のDXによる生産性向上



現場社員が、現場でのデジタル技術活用の実現にむけて、社内外の関係者と適切なコミュニケーションができる状態を目指す

全社横断の基礎教育

全社員 約2万5千名を対象に
DXリテラシーを学ぶ研修を実施

(2023年度は 4,000名が本研修受講予定)

学習内容 (全社員共通)

経済産業省が提示する
「DXリテラシー標準」に準じたカリキュラム一人ひとりがDXに参画して、
成果を発揮するために必要なリテラシー

「DXリテラシー標準」の大項目

マインド・スタンス

新しい価値を生み出す
心構え・姿勢を理解

Why

外部環境の変化・
DXの重要性を理解

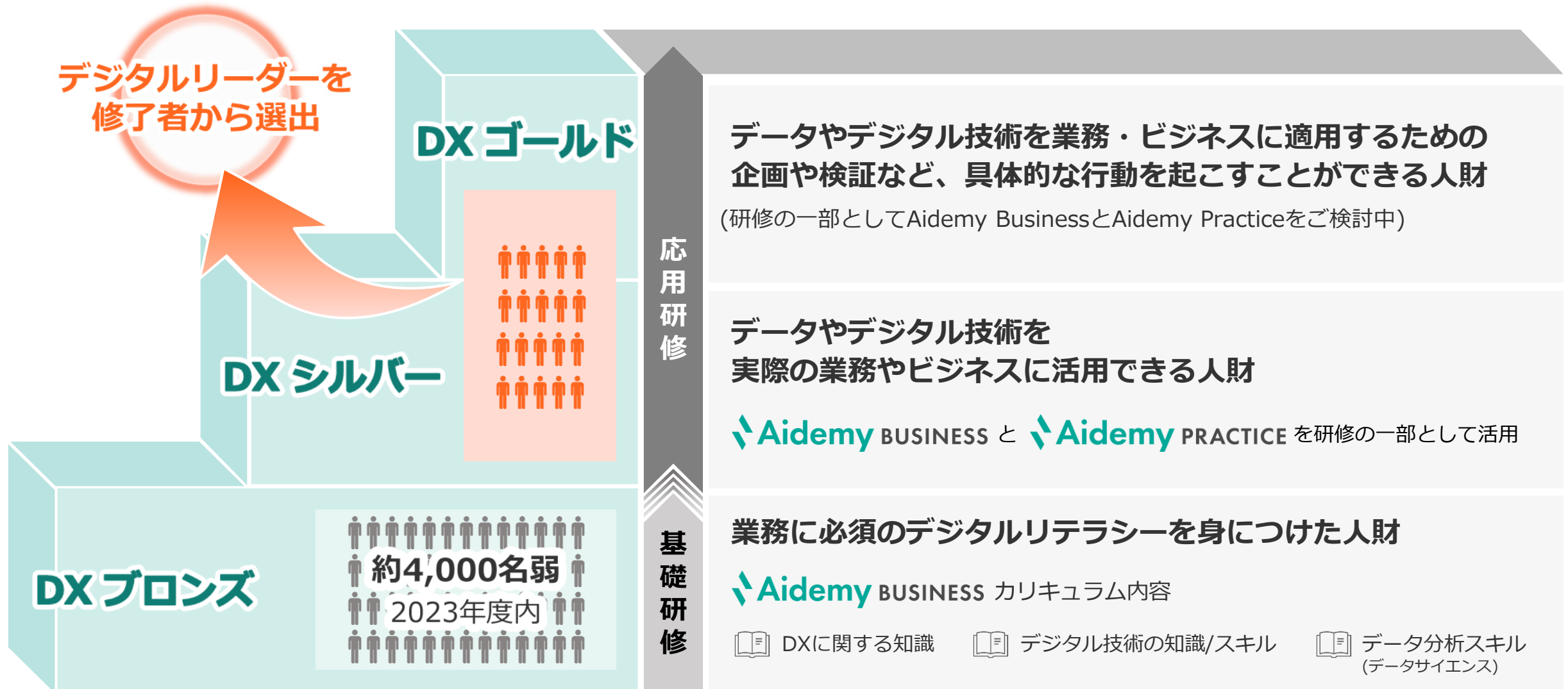
How

データ・デジタル技術
の事例・活用方法の理解

What

データ・デジタル技術
の理解

グループDX戦略推進に向けて、全社員を対象にしたデジタル人財育成研修を実施 株式会社ニチレイ



DXゴールに向けて、全社的なデジタル人材育成を実施 マツダ株式会社

アイデミーが“DX推進パートナー”として、Aidemy Business全社プランを提供し、組織のデジタル変革をご支援。

DXゴール

圧倒的短期間で
価値ある製品やサービスを
社会に提供可能へ！

全社教育の背景

著しく変化する
ビジネス環境・競合競争に対する戦略として、
組織のデジタル変革(デジタル人材育成)を決断

▼デジタル人材育成により、下記の組織力を強化

- グローバルでの環境規制などの経営環境の
変化に対する適応能力
- 自動車産業の新時代「CASE時代」に求められる
新しい価値創造力

直近3年のゴール

全社員を対象に、**デジタル人材へのリスキリング**を実施



全社人材を分類・個別カリキュラム提供

- 人材を3つに分類(役員・ビジネスプロモート・モノづくり)
- 階層・職種別カリキュラムを用意
- カリキュラムは、**基礎から発展的な内容を学べる**構成



カリキュラム内容

DXに関する
知識

デジタル技術の
知識/スキル

データ分析
スキル
(データサイエンス)

ビジネスに関する
知識/スキル



今後の実施予定

役員向け	Aidemy Businessでの研修内容拡充による業務への実装
ビジネスプロモート向け	業務改善ワークショップを活用した業務改善の実施
ものづくり向け	Aidemy Solutions※を活用したDXプロジェクトの推進

デジタルリテラシーの底上げに向けた、人材像定義・育成を実施 シスメックス株式会社

Aidemy Business 導入の背景

- 課題** DX推進に向け、
デジタルリテラシーの全社的な底上げ
- 状況**
- 社内でスキルや人材の定義がなく、
育成は各部門任せでバラつきがある
 - デジタルスキル学習機会の提供が不十分
 - 技術変化に応じた教材を自社開発する
ことは、リソース面から現実的ではない

Aidemy Business 導入の決め手

- デジタルスキル標準に準拠した
質の高いコンテンツがある
- 複数サービスを比較し、
プラットフォームの使いやすさを評価
- 動画だけでなく演習付きコースもあり、
実践的な学びが可能
- 自社向けのカリキュラム設計も相談できる
柔軟なサポート体制

実施内容

人材定義

デジタルスキル標準 + 自社独自定義による
9つの人材像/レベルを策定・カリキュラム設計 + 受講結果に基づく
レベル認定の運用

全社員向け

全社員約3,000名に学習機会を提供



ライセンスフリー
コースの活用

専門人材向け

- 9つの人材像に応じた受講希望者を全社掲示板で定期募集し、
手上げ制で選定
- DX推進部門の全社育成チームが、受講者をサポート



導入の成果/変化

- **全社員の約20%がデジタル人材像のいずれかのレベルを獲得** (2024年度末時点)
- 全体の**リテラシーレベルの底上げを、定量的に測定できる環境**が整いつつある
- **デジタルスキルをビジネススキルの一つと捉える意識が浸透**
(2025年度からは人事部門とDX推進部門が連携した全社的なリテラシー向上施策の整備が進行中)

オーダーメイドコンテンツ実績



金融系 A社 | CoEと現場をつなぎなおす DX推進のリアルを体感するショートプログラム

対象部門

全社員向け

背景

- 全社にCoEは存在するが、現場に十分認知されておらず活用されていない
- 現場での成果にもつながっていない状況だった

コンテンツの方向性

- CoEを“自分たちの支援者”として認識できる機会をつくる
- 現場の課題を“自分ごと”として捉えられるよう促す

コンテンツの内容

- 実際のDXプロジェクトに密着し、現場の課題と対応策を疑似体験
- 自部署での改善を後押しする具体的な手法・対話の進め方を紹介
 - アジェンダ 一部紹介
 - チャプター1：営業部門のDX推進プロジェクトに密着
 - キックオフ
 - スプリントプランニング
 - ユーザーインタビュー
 - 価値マップの作成

化学系 B社 | “全社向け”で基礎から実践へ 生成AI教育の第一歩を支援

対象部門

全社員向け

背景

自社のDX育成プログラムに組み込める、
実務ベースの生成AI基礎コースを求めている

コンテンツの方向性

- 基礎理解 × 実装視点 を両立した、
AI活用人材育成に最適な設計
- 各チャプター終わりに演習問題を設けて、
理解・定着をサポート

コンテンツの内容

前半

RAGの仕組みと可能性を理解し、基礎リテラシーを習得

LLMに外部知識を取り入れる

- LLMとは
- RAGとは
- RAGの構成要素

後半

社内システムへの組み込み事例を通じて、
実務への応用を具体化

事例で学ぶ！業務効率化

- 社内チャットボット

製造系 C社 | 本部主導のDXを現場に接続 リアルな声で意識変容を促す教育施策

対象部門

品質改革本部

背景

- 前年度アセスメントで「DXのWhy*」理解が特に担当者層で低調
(*デジタルスキル標準のDXリテラシー標準の範囲)
- 意識調査でも約4割が「業務改善としてのDX」を実感できていなかった

コンテンツの方向性

- DXの本質や必要性を“伝える”だけでなく、“自分ごと化”させる構成
- 本部内の事例紹介を通じ、自部署にも関係あることとしての気づきを促進

コンテンツの内容

短尺×3層構成で、現場の意識変容を促進
10本の短編動画で構成し、DXの本質を多角的に訴求

経営メッセージ	1本	トップの想いを伝える - 役員出演
啓蒙動画	3本	DXの意義をわかりやすく紹介
社内事例紹介	5本	社員出演によるリアルな実践例
特別対談	1本	役員 × アイデミー社長による対話

効果

- 年度末アンケートにて、約4割が「効果的かつ継続してほしい施策」と評価
- DX意識の高い層が約1割増加
本コンテンツを含む複数施策の取り組みを通じて、全体としてDX意識の高い層が約6割→7割へと前進

食品系 D社 | 自社人材像に合わせて設計 “プランニング力”を育むコース

対象部門

グループ全社員
(プランニング人材向け)

背景

自社オリジナル人材像の育成パスに
最適なコースを必要としていた

コンテンツの方向性

- ・ 実践につながる
“土台づくり”を支援する動画構成
- ・ ケース演習(別研修)を見据え、
動画で概念理解を深める設計
- ・ 各チャプター終わりに演習問題を設けて、
理解・定着をサポート

コンテンツの内容

9本の短編動画で構成

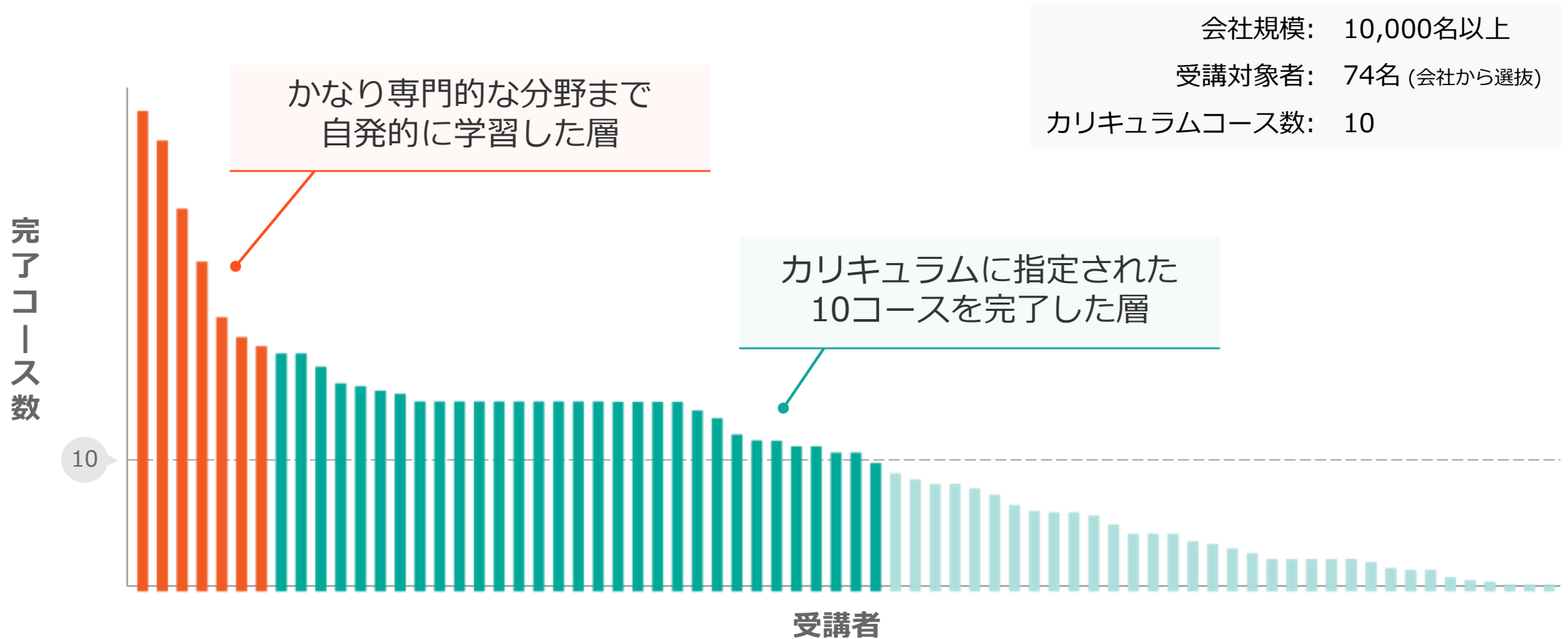
- 戦略策定概論
- プロダクトマネジメント
- ビジネスアーキテクチャ
- プロジェクトマネジメント～構築編～
- 組織改革
- ビジネスモデル構築
- アプリケーション構想
- 「プランニング(プロセス変革)」習得計画の立案
- 「デジタルリーダー」習得計画の立案

Appendix.



DXリーダー人材が見つかる「人材発掘ツール」

導入企業様の受講状況グラフ



人材開発支援助成金

Aidemy Business等の導入は厚生労働省「人材開発支援助成金」の経費助成対象となり得ます。

※記載の内容は2023年2月8日現在の状況です。

パターン ①

人材開発支援助成金 > 事業展開等リスクリング支援コース

対象や特徴

2022年12月に公開された新たな補助コース /
デジタル・DX化 / グリーン化を推進するための
研修に対する助成

経費助成率

大企業：60% 中小企業：75%

1事業所が
1年度中に受けられる
経費助成の上限

1億円

パターン ②

人材開発支援助成金 > 人への投資促進コース > 定額制訓練

サブスクリプション型の研修サービスを利用
する事業主に対する助成

大企業：45% 中小企業：60%

※「生産性要件」を満たせば、それぞれ+15%の補助を受給可能

2,500万円

以上の2コースの共通する特徴

- 対象となる事業主や従業員に大きな制限はなく、適切に雇用保険料を納入し、労務管理を実施している事業主であれば基本的に受給可能となります。
- 受給条件は「各支給対象労働者の受講時間(標準学習時間)の合計時間数が、支給申請時において10時間以上」など、他助成金と比較しても非常に柔軟性が高いものになっています。

注意点など

- 支給のためには就業時間内に受講させ、かつ受講料を全額会社が負担することが前提となります。
- 訓練開始日(契約開始日)の1ヶ月前までに必要な様式・添付書類を提出が必要で、訓練終了日の翌日から起算して2か月以内に支給申請が必要で、支給申請後、労働局所定の審査が必要になります。また、助成金の制度は年度の途中でも変更となる場合があります。
- アイデミーでは顧客の申請等に必要書類のうち「対象訓練実施者欄」に署名する等のご支援を行いますが、**補助金の支給をお約束することができません**。最新の助成金の情報や詳細は、厚生労働省ホームページをご覧ください、**社会保険労務士や管轄労働局までお問い合わせ**をお願いします。



Aidemy